

## 白老町議会産業厚生常任委員会会議録

令和2年 8月20日（木曜日）

開 会 午後 1時30分

閉 会 午後 3時33分

---

### ○会議に付した事件

所管事務調査

1. 商業・観光振興計画の進捗状況と今後について
- 

### ○出席委員（7名）

委員長	広地紀彰君	副委員長	森哲也君
委員	及川保君	委員	西田祐子君
委員	久保一美君	委員	長谷川かおり君
委員	貳又聖規君		

---

### ○欠席委員（なし）

---

### ○説明のため出席した者の職氏名

経済振興課長	富川英孝君
経済振興課参事	臼杵誠君
経済振興課主幹	鵜澤友寿君
経済振興課主幹	太田誠君
経済振興課主査	八木橋直樹君

---

### ○職務のため出席した事務局職員

主査	小野寺修男君
書記	村上さやか君

---

## ◎開会の宣告

○委員長（広地紀彰君） ただいまより産業厚生常任委員会、所管事務調査を行います。

（午後 1時30分）

---

○委員長（広地紀彰君） 今回の所管事務調査、商業・観光振興計画の進捗状況と今後については、本年3月会議にて決定、設置され、4月17日に商業・観光振興計画の進捗状況について担当課より説明をいただいたところであります。その後、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、急遽新型コロナウイルス感染対策に伴う町内事業者の現状と対策の在り方の所管事務調査を行い、定例会6月会議にて報告をさせていただきました。先月12日に町民待望のウポポイが開設され、コロナ禍ではありますが、まちの商業観光分野の重要性を鑑みまして、商業・観光振興計画の進捗状況と今後について調査を継続していくことと先般の委員会で決定したところですので。このようなことから本日は前回計画の進捗状況を踏まえ、商業・観光の計画策定の考え方などについて、皆様と協議をしてみたいと考えております。皆様のレジュメには4月に行われました商業・観光計画の進捗状況の検証と、そこで見えた委員会からの意見をまとめさせていただいたものを配付しております。お手元を参照していただきたいのですが、1枚目がレジュメとなっております、2枚目と3枚目が調査内容と委員各位から出た意見を箇条書きにして書き添えてあります。前回から間が空いておりますので、後で委員会の意見をまとめる際に目を通していただきまして、思い起こしながら意見を出していただきたいと考えております。

では、事前に配付をさせていただきました資料があると思います。調査の進め方といたしましては、まず関係課より説明を受けた後、委員会意見のまとめまで進めたいと考えておりますが、そのような進め方でよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） ではそのように進めてまいります。

本日は経済振興課より富川課長、白杵参事、太田主幹、鶴澤主幹、そして八木橋主査がお見えになっております。それでは経済振興課より説明をお願いいたします。

富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 本日は産業厚生常任委員会ということで、所管事務調査、白老町商業・観光振興計画の進捗状況と今後についてご説明をさせていただきたいと思っております。よろしくようお願いいたします。座って説明させていただきます。

それでは、お手元に配付させていただきました資料に基づきましてご説明をさせていただきます。冒頭1番から2番、前回調査時の課題、上位計画の動向について私から簡単に触れさせていただきまして、その後3番の計画策定の考え方というところから観光振興グループの太田主幹から説明をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくようお願いいたします。

早速ですけれども中身に入りたいと思っております。まず1つ目、前回調査時の課題等についてでございます。前回の中では未達項目、できてないという部分、ご指摘いただいた部分を（1）にまとめてございますが、人材育成事業、地域おこし協力隊、白老ブランド認証制度、視察研修の

ビジネス化というところでございます。この点についてはご意見を尊重しながら、今後の計画でまた進めてまいりたいと考えているところです。合わせて2つ目の今後の課題についてということでもありますけれども、観光資源のインフラ整備、新型コロナウイルス感染症による地域経済への影響について、DMOについて、商品開発についてというようなどころでご指摘を頂戴したと考えているところであります。こういった部分についてもなかなかインフラの関係については即応的な対応は難しいと思いますけれども、特に新型コロナウイルス感染症、あるいはDMOの関係につきましましては地域全体の経済の関係回復というのが急務であるというのは重々認識してございますので、コロナウイルスの関係については今回の9月会議にもいろいろな事業を上程させていただくと思っておりますが、そういった中で地域経済の回復については我々も全力で取り組んでまいりたいと考えております。またDMOにつきましましては本当に数年来ずっとこの議論を進めさせていただいておりますが、昨年観光協会を母体としてDMOの申請をしております。ここから3年間で何とか形にしないといけないということで我々も観光協会と一緒に進めてまいりたい。そういった中でマーケティング人材ですとかそういった戦略をしっかりと整える体制が必要であるというのが前回お話しいただいたかと思っております。そこら辺を重々肝に銘じて今後も進めてまいりたいと考えてございます。

次のページにまいりたいと思っております。上位計画の動向ということでございます。本年につきましては先の定例会6月会議で第6次白老町総合計画にご承認いただきまして、現在進行中という形になってございます。1つ目の第6次白老町総合計画についての概要をここで示させていただいております。将来像については、共に築く希望の未来、しあわせ感じる元気まち、8年後の目標人口につきましては1万3,815人ということで、基本目標は共生共創の実現、幸福感の醸成、まちの魅力向上ということになってございます。いろいろ中身については議会でも提案している内容でございますので、ここでは詳細は割愛させていただきますけれども、内容といたしましては3ページになりますが、観光関連ということになりますと、2-(3)にありますウポポイ等を生かした観光振興と交流人口の拡大といった部分と、基本施策については4-4で観光といった部分が明記されておりますので、現状と課題、目指す姿、将来の目標などについても、ここに整合性というか準拠しながら今後の計画策定も進めてまいりたいと思っております。

4ページ目になりますが、それぞれの観光においてはどのような事業があるのかということがございます。魅力ある観光地の形成、魅力ある地域資源の活用、訪れやすいまちづくりの整備・充実、新たな誘客への取組ということで、いずれも星がついているということで、総合計画の中でも観光分野が重点プロジェクトという形になってございますので、そういった部分で我々も肝に銘じてという形になりますけれども、役場全体を挙げて取組を進めてまいらなければいけないかと考えているところであります。

それから5ページになります。第2期白老町まち・ひと・しごと創生総合戦略になってございます。こちら今年度の策定ということで、本町のまちづくりの基本となる、あるいは重点的に進めていこうという計画については、図らずも今年度ともに総合戦略と総合計画が同じスタートということになってございます。この後の考え方に関係していきますが、この大きな総合計画、総合戦略というものを前提に、今後の計画策定を進めてまいりたいと思っております。基本的にはここにのっとなってという言い方になろうと思っておりますけれども、そういう形で進めてまいりたいと思っております。改めて、

第2期白老町まち・ひと・しごと創生総合戦略でございますけれども、戦略の方向性については若い世代に選ばれるまち、高齢になっても住み続けたいまちということで、白老町の魅力を高めていく、その中ではひとの創生、しごとの創生、まちの創生こういったものの好循環を図っていくということになってございます。特にまちの創生という部分で、多様な関係がまちを支え、誰もが安心して暮らし続けることができるまちづくりという中で、まちのファンづくりあるいは定着、こういった部分で観光が果たす役割は非常に求められる部分としても大きいのかと思っているところでございます。

6ページ、7ページになりますが、しごとの創生という2つ目の柱のところで観光の部分を大きく書いてございます。仕事の創生の中では新たな人の流れと活力を生み出し、地域経済の自立性を高めるしごとづくりということで、基本目標1では活力ある産業づくり、あるいは基本目標3で交流によるにぎわいづくりということになってございます。これらでは、例えば基本目標3ではKPIとして観光入込客数を312万5,000人、こちらについて総合計画は8年ですけれども総合戦略は5年間の計画になってございますので総合戦略の道途中ということで312万5,000人であり、総合計画では350万人を目標にしているということになってございます。

早足でお話ししましたが、こういうように第6次総合計画、総合戦略というのが今年度策定されているということに基づいて、計画策定の考え方を説明させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

○委員長（広地紀彰君） 太田経済振興課主幹。

○経済振興課主幹（太田 誠君） 本日はよろしくお願いいたします。それでは私から計画策定の考え方ということで8ページ目から説明させていただきたいと思っております。

まず(1)、計画策定の基本的な考えでございます。前計画の白老町商業・観光振興計画については、ウポポイ開設に対する準備、対策の視点で策定されており、併せて地方創生推進交付金の活用を念頭に入れ、多種多様な事業を想定した中での計画の進捗が図られてきたと思っております。しかしながら人材育成、地域DMOなど依然として推進しなければならない項目も散見されていると考えております。前計画がウポポイ開業を見据えた計画であるのに対し、今回の計画に関してはウポポイ開業を起爆剤とした地域活性化を図り、ウポポイとともに歩む計画であることが必要であると考えております。基本的な計画の内容については前計画を踏襲しつつも、この4年間で生じた時代の変化等を反映して、特に総合計画で掲げているウポポイ等を生かした観光振興と交流人口の拡大の実現を目指し、計画策定を進めていきたいと考えております。8ページ目の計画の体系図を御覧ください。この間白老町創業支援計画が令和元年度に策定されて、また本年度は仮称ですが小規模企業振興基本計画の策定が予定されていることから、今回の計画は商業に関しては新規創業等に対する観光コンテンツ化支援、白老駅北観光商業ゾーンにおける各種取組を推進することとしますが、基本的には観光に特化した計画という形ですみ分けをしたいと考えております。

続きまして9ページ目(2)、計画期間についてでございます。こちらにも計画期間のイメージ図を御覧ください。基本的には計画期間は第6次白老町総合計画との整合性を図ることから令和2年度から令和9年度の8年間、総合計画と一緒に計画期間としております。本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大の影響によって大きな環境の変化がありますから、当面は町内または北海道内、そ

の後国内さらに海外へと対策を行っていく必要から、おおむね下の計画期間のイメージで進んでいきたいと思っております。

続きまして(3)、留意すべき視点等についてでございます。①、新型コロナウイルス感染症の影響と対策についてでございます。新型コロナウイルス感染症については、現在まで収束の見通しが立っておりません。このような中、国では皆さんもご承知のとおり、GoToキャンペーンを推進されています。また、各自治体においても新型コロナウイルス感染症対応の地方創生臨時交付金等を活用した地域振興策を実施しているところでございます。今後においても感染症予防と観光振興といった、極めて両立の困難と思われる取組を、密集や濃厚接触等を回避しながら、ウィズコロナ、アフターコロナといった点に最大限の注意を払いながら、計画の策定を進めていきたいと考えております。またインバウンドの低迷は顕著でございますので、前述で申し上げたとおり、当面は国内客を中心とした観光コンテンツをはじめ受入体勢の強化を図るとともに、インバウンドに関しては継続的、積極的な情報発信に努めていきたいと考えております。

続きまして10ページ目の②、民族共生象徴空間ウポポイとの連携、波及効果の獲得でございます。前計画をはじめ総合戦略等については、このウポポイを中心に地域活性化を図ることに注力していましたが、このたび策定した第6次総合計画、第2期総合戦略においてもその方向性に変更はございません。本町においてもアイヌ文化復興のナショナルセンターとしての役割とともに、有機的な連携により効果的な施策や周辺環境整備、充実について計画的に取り組んでいくことが重要だと考えております。

続きまして③、白老駅北インフォメーションセンターとDMOでございます。本年4月に開業した駅北インフォメーションセンターはウポポイ周辺の環境整備、にぎわいづくりへの貢献だけではなく、広域連携にも寄与しながら人々の休憩や物販等に果たす役割に大きな期待が寄せられているところでございます。一昨日の新聞で道の駅のウトナイ湖でアイヌの関連商品の売上げがアップしているという記事も拝見しましたので、そういうところであれば白老町のアイヌ文化を中心に胆振管内さらには北海道に発信していければいいと思っております。また観光協会に関しては前段で富川課長が申し上げたとおり、地域DMOは主体となって本登録に向けてここ3年間で、専門人材ですとかマーケティングとかそういった情報分析をする人材が不足しているという課題はございますが、役場も一丸となって本登録に向けて取り組んでいきたいと思っております。バス駐車場収入が観光協会の自主財源として大きなウエートを占めていたのですけれども、今回コロナの関係で現在7月は約60台のバスの駐車しかございません。当初は年間9,000台と考えておりましたので、この部分ですとかいろいろな課題がございますけれども、役場が中心となって自活できる取組の強化が必要であると考えております。併せてポロトミンタラ内の民間活力導入区域に関しては早期に検討を行い、整備促進を図ることが重要だと考えております。

続きまして④、新規創業者の魅力向上、観光コンテンツ化でございます。平成27年度から空き店舗等活用・創業支援事業を実施し、現在までに15件程度の新規創業事業者が出現しており、まちとしても可能な限り支援等を行い、観光コンテンツ化へ導くことが重要と考えております。特に大町・東町商店街には10件程度の新規事業者があることから、魅力のある店舗、観光コンテンツとすることができれば波及効果の果実を得ることができると考えております。また、社台地区から虎杖

浜地区まで、経済波及効果が広く及ぶように、JRをはじめ都市間バスまた、交流促進バス等の有機的な接続、連携によっても、モビリティ機能の向上についても引き続き検討が必要と考えております。

続きまして、11ページ目の⑤、通過型から滞在型観光へということで、ここの通過型というのは長らく白老町の抱える観光の部分の課題だと思っております。本町では皆さん御存じのとおり、宿泊施設が僅少であることから、日帰りに対して宿泊客が極めて少ない観光形態が長く続いているところでございます。そうはいつても大規模宿泊施設を有する登別市との連携は今後も必要と考えております。しかしながら、消費動向等において宿泊客は域内消費額が大きくなるというのが調査でも出ていますので、その経済効果に与える影響も大きいことが明白であることから、特に宿泊施設のある虎杖浜地区に関しては観光入込調査でも11年ぶりに10万人を超えたことから、特に宿泊施設を多く抱える虎杖浜地区の部分のコンテンツ化というか宿泊客をどう増やしていくかですとか、どう広域化に結びつけるかですとか、どう周遊性を高めるかというのは引き続き課題としてはありますけれども、そういう部分も引き続きコンテンツの充実も含め、滞在型観光の割合を増やしていくことが重要であると考えております。

続きまして、⑥、その他でございます。前計画の期間中には、虎杖浜地区において進出企業工場内の遊戯施設の整備やホテルや水産業者等による地域活性化イベント等、社台地区にはスイーツ店の拡大移転に伴う白老牛店舗の進出、また森野地区については焼肉チェーン店が牧場を開設したり先だってはキャンプ場が開設されたり、2021年には星野リゾートさんがポロト地区に開業を予定されるなど、これまで挙げた以外にも様々な可能性が芽生えております。これらにアイヌ伝統舞踊や刺しゅう、様々なアイヌ文化や白老の歴史的資源、白老牛、虎杖浜たらこ等に代表される食資源、特産品、倶多楽湖、ポロトなどの自然資源などを生かして、いかに本町の既存の観光資源の魅力向上を図って、アイヌのウポポイなどと有機的な連携を行うことにより、地域内における相乗効果を高める取組が必要と考えております。

参考までに前計画の概要ということで、将来ビジョン、基本方針が6点、12ページに移って、リーディングプロジェクトが8点ということで記載させていただきました。あくまでもここがベースとなって次回の計画に進んでいきたいと考えております。

続きまして(4)、策定期間、スケジュールについてでございます。①、素案作成ということで令和2年11月頃までに事務局にて素案を作成したいと考えております。②、計画の検討ということで令和2年11月頃に策定委員会を設置、検討。令和3年3月下旬に第4回策定委員会。委員会の構成は町内の観光業、経済界等から10名程度の選任を予定しています。③、議会説明等ということで令和3年2月頃に産業厚生常任委員会でご説明してパブリックコメント、全ての議員に計画案配付、意見募集をして計画決定を年度内に行っていきたいというスケジュールでございます。

○委員長（広地紀彰君） 前回から間が開いたのでご確認をいただきます。レジュメ3枚目に委員会意見ということで箇条書きの記載があります。前回の意見も踏まえながら今般の調査事項の説明に関わっての質疑をお願いしたいと思います。質疑のある方はどうぞ。

及川委員。

○委員（及川 保君） 今の説明の12ページの最後です。③、議会説明等の中で全議員とは全ての

議員、全議員のことですね。了解です。

○委員長（広地紀彰君） それでは質疑のある方はどうぞ。

西田委員。

○委員（西田祐子君） 1点目なのですが、2ページのプロジェクトの指標というところで、①、納税義務者数1人当たりの課税対象所得を240万1,000円から258万1,000円に8年間で16万円所得を増やすとなっていますけれども、この数字の根拠はどういう考え方からこういう数字になったのかが分からないのです。当然、年金の方々もかなりいらっしゃいますから、これで16万円ということは一般的に働いている方々だとどの程度の所得が見込まれてこの数字になったのか、その辺を分かりやすく説明していただけるとありがたいと思い聞かせていただきます。

2点目が12ページの白老町商業・観光振興計画をつくるということなのですが、11月頃に事務局にて素案を作成、委員会の構成は町内の観光業、経済界などから10名程度選任を予定と書いています。白老町の観光について経済界の方々と観光業の方々と書いていますが、具体的に観光業の方々はどのような分野から考えておられますか。また経済界はどのような分野からを考えておられますか。おおざっぱで結構ですから考えを伺わせてください。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 総合計画の指標に関しては企画課に確認させていただきたいと思っております。後ほど説明させていただきたいと思っております。

策定委員会も前回の計画策定の時の部分を参考に考えておまして、当時ですと商工会、観光協会が経済界というところでは出てくると思います。正直なところ、実はこの事業について今年は予算化をしていないものですから、内部で庁内検討委員会のようにするかもしれないと考えております。外部の方を委嘱してということが前回は踏襲するとそういう形なのですが、もしかすると事務局で素案をつくって役場内部で検討を進めるということになるか悩んでいるところでございます。前回の考え方ですとこういう流れでいくのかということなのです。3月というところで、実は去年の3月でこの計画が切れているものですから、本当は予算前に何とか形をつくって少なくとも素案といえますか、おおよその形については1月頃までにまとめていきたいと考えております。それで予算等審査特別委員会ですとかそういった部分で議論とか意見を頂戴しながら進めたいと思っております。スケジュールは年度内に行うというのは間違いないのですが、委員と策定の時期については我々も悩んでいるところです。ただ基本的には経済界となると温泉の事業者ですとか観光協会ですとか、あとは個店で飲食だとかの商売をされている方に参画いただいて計画としてはまとめていきたいと思っております。そこは少々紛れがあるということで大変申し訳ございません。

次に240万1,000円から258万1,000円というのは、240万1,000円が直近の平成30年度の1人当たりの所得金額になってございます。目標値としているのがこの10年間で最大値、これが平成21年まで遡るのでございますけれども、平成21年度に258万1,000円という数字がありますので、まずはこの10年間で最大値をこの8年間で獲得できるように努めていきたいと思っております。ここについては納税義務者の所得ということになっていますので、年金の方がどのくらい入っているかという部分もあります。ですから、給与所得者あるいは個人事業主の皆さん、いろいろなジャンルの方、まずは所得がかかって納税金額がある方を対象にしていますので、年金で多い、少ないというので少

ない年金の方は除かれているのかと思いますけれども、300万円とかの年金をもらっている方がいらっしゃれば納税義務者としてここにカウントされているだろう、その部分の数字は入っていると考えられると思います。

○委員長（広地紀彰君） 西田委員。

○委員（西田祐子君） 納税義務者の1人当たりの課税対象所得258万1,000円という目標値は、なぜこの数値なのかというのは前の計画を見た時も疑問に思っていたのです。今回もこれと同じ数字を使っているのも分かるのですが、ただウポポイができて、起爆剤として白老のまちの事業の活性化をするのだ、にぎわいが生まれるのだ、人口は1万3,815人まで減るけれども、それなりのまちのにぎわいをつくって白老のまちとして元気よくやっていくのだという目標を立てている割には、なぜこの数字になるのというのが非常に疑問です。ですから本当になぜなのですか。観光入込客数が150万人です。それが目標値350万人に増えるのです。つまり2倍以上になるのです。それでいてこれしか所得は増えないのですか。変な話ですが白老のまちの事業というはある程度観光というものには重きを置いていこうとしていますし、今まででもそうしてきました。そういう中でやはり白老町全体での目標値というのではなくて、どれだけ力を入れるかというところが見えなくて寂しいという思いがあったものですから発言させていただきました。

2点目の策定についてなのですが、町内の観光業、経済界はいつも同じメンバーですから聞いているのです。だいたい同じような人ばかりです。例えば新たにナチュラルサイエンスさんが来ました。あそこはただの化粧品会社ではなくて、多くの方々がいらっしゃいます。また敷島ファームさんがいらっしゃいます。敷島ファームさんは本州の事業者ですが、今新型コロナウイルスの問題で牛肉が非常に余っているという中で順調に販売をしています。やはりそういう新たな方々の知恵を拝借するというのも大事なことだと思っています。ですから、きちんとするのであれば、庁内でするのも結構ですが、本来であれば策定委員会というのはメンバーから自分たち役場職員だけでは思いつかないアイデアとかご意見とかを賜るためにつくるわけだと私は思います。ですから、いつもと同じメンバーではなくて、新たな形で、よそ者ばかりといいますが、よそから来た人たちから見て白老のまちは魅力のあるまちだと言って事業を展開してくださる方が多いのであれば、やはりそういう方々のご意見も参考にさせていただきたいと思います。予算があるからといって、策定委員のメンバーにお支払いするものはわずかな金額です。それを考えて庁内の中だけで済ませてしまって、白老の未来を形づくる計画ができるのか非常に疑問に感じています。その2点を言わせていただきました。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 大変貴重なご意見を賜りましたので持ち帰らせていただきます。やはり向こう8年は観光が重要な案件になっていきますので、ウポポイとどれだけまちの活性化を図っていくかという部分では、様々な皆さんの意見をお伺いできるような体制で検討していきたいと思っております。改めてご相談、ご意見を賜って検討させていただきたいと思っております。

所得の関係ですが、総合計画のおさらいということで、成案になっているもので258万1,000円というものが目標となっているということですから、これを変えるわけにはまいりませんが、我々も350万人という目標がある中で観光産業としてそれが実現していけば、おのずと258万1,000



円というある意味小さな目標だったと言える取組を進めてまいりたいと思っております。まず、今入込みが159万人ということで去年よりは若干増えています。かつ、太田主幹からもお話ししましたが、昨年度は11年ぶりに宿泊が10万人を超えたということで、こういった宿泊滞在型といった部分に注力しながら、観光の体質といったものの変化を生み出していけるような取組につながる計画にしていまいりたいと思っております。

○委員長（広地紀彰君） 西田委員。

○委員（西田祐子君） 所得について言わせていただくと、総合計画で出されているから仕方ないということは分かります。しかし内部で検討したときに、総合計画の中で観光に占める割合といいますか、収入を考えたときにどういう検討をしたのかというのが課題ではないか、問題ではないかと思うのです。観光で今までやってきて、申し訳ないのですが、昭和40年代、50年代はポロトのお店で働いていた人たちというのは、財布に入らないだけの札束を持って歩いていました。そういう過去があるのですからそれを全て忘れてというのは全然違うのではないかと、どこかピントがずれているのではないかと思います。もし経済振興課などでしっかりと話合いができていれば当然、総合計画の中に反映されなければおかしいのです。そういうところを、小さな目標だったと言えるようにではなく、経済振興課としてどれだけの目標を個別に持つかという考え方も持ってもらいたいと思います。厳しい言い方ですが、経済振興課が白老のまちをリードするのですから。ここが目標を小さく持ってしまっただけでは白老はどうにもならないのではないのでしょうか。すみませんがそのように思っております。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） ありがとうございます。そういったことに少しでも応えられるように全力を尽くしてまいりたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） ほかの委員からの質疑をお受けします。

貳又委員。

○委員（貳又聖規君） まず私は8ページ目の計画策定の考え方について思うところがあります。まず一つは中段に、前計画がウポポイ開業を見据えた計画であるのに対し、今回の計画はウポポイ開業を起爆剤とした地域活性化を図り、というところがあります。気になるのが次なのです。ウポポイとともに歩む計画というところですが、これは白老町内の観光に関わっている方々は、ウポポイありきで動いている方ばかりではありません。これを見たときに虎杖浜などで頑張られている方々はどうなのでしょう。私は主語が違うと思うのです。ウポポイは起爆剤とした地域活性化として使えばいいわけであって、そこでは地域住民の方々、町内の事業者とともに歩む計画、主体、主語は国ではない、ウポポイではないということなのです。私自身も反省すべき点だと思うのですが、1、2年後の未来を見据えた姿が具体的に見えて、そこにどういう課題が見えるかということを見なければならぬと思っております。その1つとして星野リゾートさんが2021年に開業します。星野リゾートさんは宿泊業というところだけで見られているかもしれませんが、トマムで実際に動いているように宿泊されたお客様にいろいろなアウトドア体験、アクティビティのメニューを提供します。すなわち旅行業の資格を持っているのです。星野リゾートさんが開業した場合に、宿泊ホテル経営のほかにはポロトの森というのが、あれだけアクティビティ、アウトドアの可能性が

とてもあるところですが。そこで白老町で本来ならば観光協会がDMOを取得するということではなく、専門人材も併せて必要ですけれども、やはりDMOの本登録を目指すには旅行業の資格が必要なのです。私がなぜ必要かという、DMOの必須条件には入っていないのですけれども、DMOの本登録になっている各自治体を見ると旅行業の資格を持っているところがDMOの本登録になっているのです。そうすると星野リゾートさんが入ってきたときに白老町内で旅行業の資格を持っている機関がないということで行くと、星野リゾートさんはこのような形で行います。星野リゾートさんは宿泊されるお客様に満足度を高めたいので、ポロトの森におけるアウトドア事業を始めます。そうしたときに、そこでアウトドア事業をするときに懸念していることは、町内の事業者を相手にせず外から技術者を連れてきて、白老をフィールドに外の方が稼いでしまう状態です。それが今まさに手を打たなければならないところだと思います。ですから、そういう意味でウポポイとともに歩む計画だととんでもない計画になってしまうわけです。とんでもないというのは、我々の足元、町民の方々、事業者の足元を見ない計画になってしまいます。そうではいけないということです。

そういうことで私から一つ提言なのですが、今、地域おこし協力隊で自然ガイドをしたいという若者が何人もおられます。ポロトの森をフィールドにされています。彼らがお客さんを実際に受け入れるということは旅行業法上において違法なのです。ですから観光協会が旅行業の資格を持って、観光協会が行うポロトの森のアウトドア事業の中に、ガイドとして地域おこし協力隊の方々を名を連ねるという仕組みをつくらなければならないはずなのです。それが今できていません。今できなければどうなるかという、来年終了を迎える地域おこし協力隊の方々がいるのか分かりませんが、終了した後に白老を去らなければならない状態になります。そういう危機感を持たなければならないということです。ですから、私はこの計画で言葉の表現はとてもいいと思うのですが、本当に今身近な課題を見たときにどうなのかと思います。地域おこし協力隊としてせっかく来てくださった方々は、3年間頑張ったけれど白老で力を発揮するところがありません。でもビジネス環境をつくるのは行政がしなければなりません。そういったところを課題整理するような計画、プロジェクトが入ってこなければ意味がないと考えます。そういったところをどうお考えですか。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） ウポポイとともになのか、地域住民あるいは地域事業者とともにというのは両面があっていいところかと思います。ご指摘のとおりかと思います。ただウポポイというのは本町が図らずもといいますか、過去からの努力によって本年ようやく開業を迎えるという中であっては、よそにない吸引力、訴求力といった部分であるのは間違いないかと思います。そういった中で総合計画、総合戦略は、これまでウポポイを中心にどうしたら波及効果を得ることができるか、あるいはそれでどういうことができいくかということがこれまでの計画にあったらと思う。そういった中で開業した後どう動かしていくのかというのが、貳又委員のおっしゃる部分なのかと思います。ですから、後段に我々も新規創業者の支援というのをどのようにしていったらいいのかと思うのですが、やはり足元が弱いであろう方々、逆に言うとその部分は地域の方々とともに歩むというような部分と一緒に観光の盛り上げをしていきたい。新しい方が新しい感性、これまでにない事業形態ですとか、そういった部分で新たな風を吹き込んでくださっているとしま

すので、そういった方々をなるべく支援できる形にしたいのです。これを逆に計画に入れることによって、毎年度しっかりと形にして支援できないかということではそういう思いを持っております。冒頭の8ページの部分でいきますと、ウポポイが大きいウエートを占めるだろうという意味でウポポイとともに歩む計画と記載させていただきましたが、当然ウポポイがあってその波及効果を得るためには受け皿になる新規創業者、若い方、足腰の弱い方、あるいはかねてからずっと町のために貢献されて業をなしてこられている方、皆さんが果実を得るような仕組みになるように、そういったものは計画だけではなく事業としても考えていきたいと思っております。今日は所管事務の資料としての文書ですから、その辺については今後の計画の中では再度検討しながら進んでいきたいということで、現時点ではご容赦いただければと思います。

また、地域おこし協力隊の関係については、農林水産課が森林ガイドとして3名持っております。1名は今年度をもって卒業となります。我々も我々でガイド人材の育成ということを併せてやっております。これは主に白老の歴史ですとか刺しゅう講座ですとかそういった部分になるかと思いますが、ただそれを束ねる組織というのは貳又委員がおっしゃるように、どうにかしてつくっていかねばならないだろうと思っております。それはここの中で書いているわけではありませんが、継続して検討しているという状況ではあります。やはり地域おこし協力隊の方々の熱量や思い、夢といった部分を我々がどのように支援できるか、あるいは3年間の経験をしっかりと地元で発揮してもらうような環境をつくっていきけるようにしたいのです。具体的にどうしていくかというのは、観光協会との協議は必要だと思います。単体でガイドセンターというのはなかなか難しいと思いますので、協会などにガイド部という形で持たせて、それを前提とするには協会が旅行業の資格を取らなければならないということも当然ありまして、DMOの本登録に向けては協会も旅行業の資格をしっかりと取っていくということが今検討されておりますので、複合的な視点の中でそういった対策、考え方を進めてまいりたいと思っております。

○委員長（広地紀彰君） 貳又委員。

○委員（貳又聖規君） 分かりました。2点あります。まず町民の皆さんとともに歩むというところが必要だということであるところであると、町内を歩いてお話を聞いていると、70代のある女性から、実は私は町が募集していたガイドの育成事業に手を挙げようと思ったと聞きました。ただ自分も高齢で足腰も弱いので今回は手を挙げませんでした。なぜなら、もともとバスガイドをしていました。今はカラオケのサークルに通っていて、その中で白老の歌を歌っているらしいのです。町民はウポポイができたので、何かお客様をおもてなししたい方がいらっしゃるのだと思いながら聞いておりました。ですからこれは観光事業者に限らず、町民の方々もウポポイを機にそういった部分で関わりたいという方々がいらっしゃるのだということもありましてお伝えしました。

それからDMO、旅行業の関係なのですが、これは本当に観光協会が旅行業の資格を取れたらこれは最高にいい話なのですけれども、時間が限られていると私は思います。なぜなら星野リゾートさんが来たら星野リゾートさんがやってしまう可能性が多々あるのです。であれば今は星野リゾートさんとはどのような話合いをされているか分かりませんが、ホテルが開業されるのであればその辺の旅行業の整理、星野リゾートさんともされてはどうですかと私は思うのです。星野リゾートさんがそれはできないというのであれば観光協会を取ってもらわなければなりません。ですが星

野リゾートが自分たちで考えているというのであれば、行政の中でDMOの旅行業の資格を取るの  
が難しければ、そこにまちはお金を入れているわけです。専門的な人材も必要だということで今後  
入る可能性があります。行政だけで行う観光の姿もありますけれど、民間と手を携えながらする振  
興策もあるはずなのです。であれば観光協会ですれが無理だとしたら、星野リゾートさんと連携し  
て、ただ星野リゾートさんには町内の人材、事業者を使ってくださいということを今から町は動く  
べきだと私は思います。

○委員長（広地紀彰君） 鶴澤経済振興課主幹。

○経済振興課主幹（鶴澤友寿君） 今、星野リゾートさんの話が出たものですから回答させていた  
だきます。経済振興課の商業のグループが星野リゾートさんの担当窓口になっております。なぜか  
というと、進出した暁には地元の食材の調達ですとか工事関係ですとか、もろもろまちの経済の活  
性化に寄与したいということがありまして担当しております。実際細かい話ですと従業員の駐車場  
のことですとか日々いろいろな相談が来ておりまして、その中で開業後のウポポイとの連携ですと  
か町内とのコミュニティの連携をどう図ったらよいかという相談を受けてございます。その中で経  
済振興課が担当しておりまして、当然ガイドの話も出てきていますので、地元の人材を活用した形  
でご提案もしながらそういったやり取りも既に行っております。今委員がおっしゃった内容は頭の中  
に置きながら対応しております。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 星野リゾートさんの部分は個別の案件について定期的に随時対応  
しているという状況ですので、そういった中で今おっしゃったような案件についてもご相談をして  
いくのは可能かと思っておりますので検討したいと思います。

それと町民の70代の女性の話でございます。ウポポイの関係に併せて観光でガイド養成講座など  
をしております。それはそれとしておそらく二の足を踏んだというところもきっとあるのかと思  
いますけれども、ウポポイをもってウポポイに関心を持っていただくといった方が活躍できる機会と  
いうのは、多様な機会を検討していかなければならないかと思えます。そういった方々に光が当た  
るような取組を検討できるように我々は努めていきたいと思っております。

○委員長（広地紀彰君） 貳又委員。

○委員（貳又聖規君） 星野リゾートさんの関係はそうしてきちんと進んでいるということでそれ  
は分かりました。それをなりわいとしている事業者さんもいるわけです。アウトドア事業をされて  
いる事業者さんもいるわけです。そういった方々はそういった情報がないと不安です。行政が星野  
リゾートさんときちんとやっているからといっても、そういった方々の思いを酌んで行政が動いて  
いると思うのです。そこは一番私が心配するところなのです。ですからこういった問題は議会にも  
きちんとこういう状況であるということを言ってもらわないと、私も町民の方々の仕事を守る義務  
がありますから、そういったところは上手に対応していただきたいと思えます。これについては回  
答を求めません。

○委員長（広地紀彰君） ほかの委員からの質疑をお受けします。

及川委員。

○委員（及川 保君） この商業・観光振興計画なのですが、中身を見るとウポポイと連携をして

という文言がよく出てきます。連携した取組とかです。ウポポイはあくまでも国です。ウポポイを核にしてまちの活性化につなげるということがよくここでうたわれているのです。言っているのです。ただ間違っただけとはいけないのが何も連携するものがないのではないですか。例えば今回のウポポイのオープン後の状況を見てみると、駅の南側はほとんど客の増加にはつながっていません。この状況は今どうなっていますか。それを様々な改善をしながら取り組もうとするのでしようが、私はここに落とし穴がある気がしてならないのです。白老町にとってはウポポイをこのまちで活性化につなげていこうとするのは当然のことです。しかし連携してどうこうではないのです。やはりまちが主体となって様々な事業を自分たちで考えて取り組まなければいけません。どうして活性化につなげていかなければいけないかということ、そういう取組をしなければいけないのに、国頼りの、連携しながら、というこんなことはやめてほしいと思うのです。そうではなくて、昔からある様々な観光一つにしても取組がずっとされてきました。実はそれは個々の民間の皆さんの努力なのです。もともとあった商業を含めたポロトの取組、木彫り熊ですとかニボポですとかがありました。それは民間の力なのです。まちが取り組んだわけではありません。そういった民間の活力をこれからつなげていかなければ後世に全然残っていかないのです。新商品を開発します。冗談ではありません。新商品など簡単にできますか。目新しいものもできているものもたくさんありますが、それが本当にまちの活性化につながるかという私はそうは思いません。やはり昔から大事にしていた、関わってきた方々の思いというものは大事にしなければならないのです。それを後世に残していかなければならないと私は思うのです。それが様々な面で活性化につなぐ、観光ばかりではなくて商業にも大きな影響を及ぼしていくはずなのです。裾野が広がるのですから。新商品を開発します、ウポポイと連携して物事を進めますというのは少々違うのではないかと思います、その辺りの考え方はいかがですか。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） ウポポイの開業後の商店街について、新聞などになかなか人が流れてこないと書かれております。一方では一部の店舗にはしっかり流れているという実態はあります。お客様がどう選ぶかとか選ばれるかということは非常に重要な視点かと思っています。一部、駐車場の問題が町なかでは出てきております。これは基本的にはウポポイの開業と新規で出店されたところに対しての需要といますか効果なのかと思います。ただそれを1件だけではなく2件、3件、両隣、面的に波及が及ぶようには考えていかなければならないだろうと思っています。ただ商業の部分でいうところなのか飲食ですとか観光とかと要素が重なる部分が深いところで考えますと、ウポポイですとか観光の方が寄るところは決まってくる可能性はきっとあるだろうと思っています。そういった中で商店街にどういうふうの流れをつくって、そういった時に食べる、飲む、遊ぶようなところがあって、お客さんが入るか入らないかは別にして少なくとも歩いているというような形のことを取り組んでいかなければならないだろうと思っています。当然今おっしゃったような昔からの思いは大人から子供、亡くなった方からこれから生まれてくる方、そういったものに対して全ての皆さんがこの白老というまちで生活をしていただきたいという思いは我々も持っていますので、そういった中では今まで我々がここに住んでいる白老町という土台を形成してきていただいたそれぞれの事業者の皆さんにも、当然これまで以上に、極端に言うとも明日やめるかもしれない

ものを1年でも長くやってもらえとか、後世にずっと残してまちの誇りとして仕事としてやっていただけるような環境やそういう思いというのは我々も当然持っています。一方では新たなもの、時代でニーズも変わってきますので、そういった取組、ある意味チャレンジ的な部分になるかと思えますけれども、そういった取組はしていかなければならないだろうと思えます。新旧といたしまかベテランと新人の共存みたいなことはしていかないと、それがまちの多様化、魅力になっていくのだろうと思うのです。洋食屋さんだけあっても我々もだんだん和食がいいなとなってきましたから、誰かがいいというわけにはいかないだろうと思えます。そういった意味では事業としてはもしかすると新商品開発ですとかそういったところは目につくところはあるのかと思えますけれども、決してずっと支えてくれている方々を軽視するといった思いは全くないと考えています。今のご意見の中で我々も改めてどういった支援あるいはどういった活性化策があるのかというところを、もう一回基本に立ち返ってそういった部分はしっかりと見ていきたいと思っています。それから、ウポポイについてはここ数年来の大きなトピックといたしますか、将来、国立の博物館が白老のまちに次のものが出る、あるいはほかのまちに国立博物館が出るというのはなかなかないことだと思います。それに適地として選んでいただいて、開業しているという中であっては、まちに与えるインパクト、あるいは白老を目的地としていただく多くの皆さんに対するインパクトというのは、やはりウポポイが一番あるだろうということで活用する、受入態勢をつくるかそういった話をきいているのだろうと思えます。観光振興計画だけではなくて各種計画もウポポイを核にして、総合戦略もそうでしたが、そういう書き方は書き物としてはあるのかと思えます。ただその一方では我々も虎杖浜から社台まで全域にこういった回遊性を高めるとか波及するような取組は継続的に考えていかなければなりません。それというのはもちろん我々が持っているポテンシャル、まちの魅力あるいはまちの店舗、事業者さんの魅力あるいは住んでいる人々の魅力という部分で、ウポポイはあくまで大きいインパクトであって、まちに影響は与えてはいるとは思いますが、主役になるのは人であったり個店であったりということになってきますので、それぞれが輝けるような取組、それを我々がどこまで支援するか協力するか一緒になって頑張るって走っていけるかというのは、今後の課題というかずっと頭に入れておかなければならないのかと思っています。

○委員長（広地紀彰君） 及川委員。

○委員（及川 保君） 大体分かりました。ただ忘れてほしくないのは連携を重視するばかりでさっぱり活性化につながらないことなのです。何度も言いますが、大事なのは自分たちでウポポイを核にしてどういった取組をするかなのです。連携はいいのです。これは国の事業なのですから。連携しようなどは簡単な話ではないのです。そうではなくて、ウポポイを核にして客を呼ぶ、そして町民みんなが、ウポポイができてよかったという状況をつくらなければいけないと思うのです。今回まちがいい取組、無料化の事業をしました。この取組はコロナ禍の状況の中ですから非常に難しいのですがお年寄りも誰も行きません。インターネットで申込みをしなければならないのです。これは簡単ではないのです。ほかの人は分かりませんが私の周りにはそう言っている人が実はたくさんいるのです。役場に来て一生懸命聞いて、これは駄目だと言って帰る人がたくさんいるようです。これについてもう少し何かできませんか。無料化の期間は7月11日までしかないのですが、これは大事なことです。その間ももう少し町民のお年寄りでも見ることができるとか何か考えてく

ださい。国との関係でようやく無料化の事業もできたという状況は分かります。これではせっかく行くこうとしていても、諦めてやめている人が実はいるのです。何とかしてください。先ほどの話は分かりました。頑張りましょう。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） まずは1点、よくも悪くもウポポイはできてしまっているということも含めて、コロナの関係もありますが100万人を目標にします。アイヌ民族博物館が平成3年に87万人であったというのが過去最高で、相当その時にもぎわったのでしょうか、それよりもさらに13万人です。13万人というと東日本大震災が終わった直後のアイヌ民族博物館の入込みが14万人ですので、ピークの時と一番少ない時の合体版が100万人くらいですので、2か年分という形になるのかと思います。ただ100万人が実現して、そこから白老にどれだけお金を落としてもらえるかといった部分では、連携というか、ここは競い合いなのかと思うのです。お隣同士でも売上げが高いのと低いのが出てくると思います。ただ隣が高くなっていけば、その隣ももしかするとベースが上がるというような形もあると思いますので、そういった意味ではウポポイに来る人、今までウポポイがなかったら来てなかった人が多いので、それをいかに地元で消費してもらって、地元の店舗に寄ってもらうかというところが一つ課題になってくるのかと思います。そういった意味で連携というのは言葉としては出てくるのかと思います。いろいろその辺も含めて考えていきたいと思います。

それと無料化の関係です。これは先般ウポポイに行っていて私が別件の受入れの関係などでやっていたときに、アイヌ総合政策課の笹山課長と一緒に行ったのですが、やはりそういう課題は現状アイヌ総合政策課でも認識はしています。ただいかにウポポイ自体がコロナの関係も含めて全くインターネットでしか受け入れないですとか、国立博物館も全部1時間で区切ってどんどん入れ替わって日中の時間帯は全く空かないのです。それも2週間前からしか予約できないので行程を決めるといふか日程を決めることもままならないというところもあるのかと思います。その後アイヌ総合政策課から聞いていませんが、無料化で多くの人にせっかくですから行っていただきたいという思いは担当で持っていますので、その辺は今どういう方向かの答えは保留させていただきますけれども、担当課にはこういう意見が出ましたということでお伝えします。どういふ方法があるかというところで検討しているのは間違いのないと思います。その辺のところは別のどこかの機会でご報告させていただきたいと思います。まずは伝えさせていただいて、別の機会にご報告とさせていただきます。

○委員長（広地紀彰君） 及川委員。

○委員（及川 保君） 今のウポポイの入場については、ハガキでの申込みの期限と少々勘違いをしていました。白老のウポポイというのは町民みんなが受け入れる、町民がこぞってよかったとそういった部分がいろいろつながっていくはずなのです。そこが、ウポポイは自分には関係ないという人が大半になってしまうと、非常に問題な状況だと私は思うのです。そこがあるものですから今、入場の話を見せてもらいました。いずれにしても、連携の考え方とウポポイを活性化につなげることはしっかりと取り組んでいってほしいと考えます。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 我々もウポポイの言葉は別として、今及川委員がおっしゃったよ

うに、もしかするとこの委員会の中でのウポポイを中心にとか、ウポポイと歩むとか、ウポポイと連携するというところに、委員の皆さんも少し違和感があるということであれば、傾注しすぎているとかそういうことでいうと、一般の町民の皆さんがどれだけそこに理解・関心を示してくれるかということをお考えますと、委員がおっしゃったように、多くの方に一度見ていただいて、入っていただいて自分のまちの私たちのウポポイと思っていただける方を一人でも増やしていくことが非常に大事なことだと思いますので、終わり次第アイヌ総合政策課にしっかりと伝えてまいりたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 暫時休憩いたします。

休憩 午前14時40分

---

再開 午前14時50分

○委員長（広地紀彰君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

長谷川委員。

○委員（長谷川かおり君） 長谷川です。私も商店街の方から今までは商店街なら商店街、商工会あとは社台地区、虎杖浜、竹浦地区とそれぞれ事業を起こしていけばよかった時代もあったけれども、今は人口も減少して担い手というところも考えると、まちが一つとなって連携していく時期ではないかという意見も聞いております。その中でやはりまちが主として動いてほしい、そしてそれぞれの商工会、商店街の方たちの顔と顔をしっかりとつなげて意見を交換できるような場を設けてほしいという意見も聞いております。あとは町民一人一人が、白老が好きです、こういうところがありますというところをしっかりとまちとして発信して、例えば観光客の方がコンビニなどに入って次どういうところを観光で見たらいいかという相談を受けたときに、白老はどこもないというのではなくて、店員さんなども例えば虎杖浜にこういうものがありますという紹介をして、もう一泊していったらどうですかというような発信の仕方。そうしていくと観光客の方も白老のよさを分かってくださり、そういう中で今はインスタグラムなどで発信していくと白老の隠れたよさもどんどん出てくると思うので、そういうところをもっとまちとして吸い上げて町民にお知らせしていくとか手段を考えてくだされば、もっとまちが発展していくのではないかと思うので、その辺よろしく願いいたします。

○委員長（広地紀彰君） 臼杵経済振興課参事。

○経済振興課参事（臼杵 誠君） 商店街の関係でお話をさせていただきます。北側はある程度お客様は来るけれども、なかなか南側の東町、大町の商店街にあまり流れてこないという指摘もいろいろなところでもあります。商店街の方々も何とかしなければというところで情熱的に相談していただいたりしてございまして、週に何度も打合せをして、例えば大町でいえばここは町道なので役場の建設課とも連携してもっとよくできないかですとか、イベントを開催できないかですとか、まだ公式の場でお話しできるほど煮詰まっていないこともいろいろあるのですけれども、そういったことで、非常に大町、東町についてはまずはお客さんを呼ぶために何かしようとしています。同じように萩野のあちらは商工振興会です。萩野の方々とも何度かお話をして、今コロナでお客さんが減っているというのも一方でありつつ、一方ではウポポイでチャンスだと両面ある中で、商工業者さん



の団体として何ができるかというところで一生懸命相談をしているところです。具体的な話にならなくて恐縮ですが、少しずつその成果が目に見える形で現れてくるのではないかと今考えております。そうした中でまち全体としてというのもおっしゃるとおりでございます、だからこそ観光インフォメーションセンターの機能が大事になってくるのかというところです。観光インフォメーションセンターを軸にして、町内の回遊性を高めて商工業者の方々にお金が落ちるような仕掛けを町としても一緒に考えていきながら、支援できるところを探してまいりたいと思います。現在進行形のところではありますが、そのような動きをしているところです。

○委員長（広地紀彰君） 太田経済振興課主幹。

○経済振興課主幹（太田 誠君） 多くの委員の方から連携という部分が出ましたので、今年2月に地域DMOということで、観光協会で戦略協議会を立ち上げて1回目の会議を開きました。そこに様々な商工会しかり農業協同組合ですとか漁業協同組合、アイヌ協会、交通事業者、飲食、宿泊施設、地域住民も入っていますので、その部分で今まで個々で情報発信していた部分を連携しながら一つの情報発信という形で誘客ということで観光協会が中心となってこれから動かしていかなければならないと思っていますので、その部分はそういうところの戦略協議会も活用しながら、観光コンテンツの造成など受入環境の整備ということはしていけるかと思っております。

また、観光インフォメーションセンターの中に教育委員会からパネルを借りてきて、そこに例えば固有名詞を出しますと、スーパーくまがいさんの海鮮丼ですとかそういうチラシを貼って効果があると聞いております。また7月の補正予算でサーモグラフィにデジタルサイネージがついたものもございますので、それが導入されたらそこで観光のPRをすることなども考えています。また、受入環境の整備に関しては、平成30年度から地方創生推進交付金でガイド講座を実施していて、昨年は役場職員も含めて50数名の受講があったということで、着実に観光客におもてなしをしようという町民、職員が増えて、長谷川委員がおっしゃるとおり、地域住民、役場の職員が一体となって観光客を受け入れるという人は増えてきていると実感しております。今後は今までの来てもらう観光誘客ではなくて来たいと思わせる観光誘客、まちづくりが必要となっていきますので、新規の商品開発があるべきですし、既存の地域資源の磨き上げもさらに進化させて、白老町に行ってみたくと思わせる計画も含めて事業展開をしていきたいと思っております。

○委員長（広地紀彰君） ほかの委員の質疑をお受けいたします。

森副委員長。

○副委員長（森 哲也君） 森です。9ページ(3)、留意すべき視点等について質問をいたします。こちらにウィズコロナ、アフターコロナといった点に最大限に注意を払いながら計画の策定を進めることが重要ですと書いています。まさにそのとおりだと思いついて見しております。今のコロナ禍の状況で様々なイベントなどが中止になっている現状もありますが、経済振興課としても駅北で開催するには覚悟もあったと思うのですが、今回ロングランイベントをされました。私は対策をしながらイベントを開催するという事は、なかなかほかの団体ではイベントの開催方法などに困惑している部分もあると思いますので、今回ロングランイベントを行えたということは本当に役場だけではなく町全体の大きな経験になるのかと思っている部分もあります。ロングランイベントの状況やそこから見えた課題点や問題点、中身などのお話をお伺いできればと思います。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 7月12日のウポポイの開業に合わせまして、ロングランイベントを開始したということになってございます。森委員がおっしゃるように我々も非常に悩みましたし、葛藤もありましたし、どのようにしようかと大変苦慮したところと思っています。北海道が行うということもありまして、ウポポイは国、つながりの広場は北海道、駅北インフォメーションセンターは町として、国、北海道、町とまさに連携というか一緒になって進めるという方向性が見えたので、町もやりましょうということで7月12日からスタートさせていただいております。お客さんは逆にあまり混んでいないので残念ですが、有り難い部分もあるといいますか、何とも言いづらい感触なのです。本当は出店者の皆さんには飛ぶように売れるという状況が必要かと思うのです。けれども我々もスタートするに当たって、2メートルのソーシャルディスタンスのラインを引きながらここで立ち止まり下さいとしっかりとやりながら、販売される方についてはビニールの手袋をつけて、当然マスクを着用し、それぞれの店には消毒液を設置、現状考えられるものには飲食ブースなどもテントのはりを使用してビニールを垂らして、向かい合わせになっても飛沫しないような対策してということで、準備も非常に手間暇がかかりますし、担当職員は大変な思いをして、正直休みもなくやってもらっています。そういった中で成果といいますか内容については、これまで野菜市ですとかあるいはお菓子を売っていただいたりバーガーを売っていただいたりということをして7月にさせていただいて、この8月の8日、9日、10日は初めて子供向けのイベントをさせていただきました。マジックですとかピエロ、科学実験という形でそれぞれ日にちを変えながらです。実際テントを2張りつないでおりますので、奥行きが3メートル、幅が12メートルという形になります。そこに大体4人が並ぶ形での8列くらいです。実際にそれぞれに参加されるお子さんは1回当たり10人前後かと思えます。しかし、やはり短い夏休みということで今回学校の夏休み自体も8月8日から18日までくらいしかありませんでしたので、そういったところに合わせて子供向けのイベントをさせていただいて、来ていただいた方には大変喜んでいただいたかと思っております。一方でやはりいろいろなイベントが中止となっている中で子供向けのイベントをしていいのかという意見もいただきました。やはり皆さん神経質になられていますし、予防に対しては最大限の注意を払っているという状況でそういったお声もいただきましたけれども、イベントをしたら子供も大人も関係ないかと思えます。ただ短い夏休みでお子様が少しでも楽しめる機会、大人が躊躇してどこにも連れていけないということであれば、身近に少しでも楽しめる場所を提供したいという思いもありまして開催させていただいたという状況であります。

今週末もまた野菜を売るなどということで、間には津軽のメロンなども取り寄せて一部売って、我々の手違いでニンニクが届かないということもありましたけれども、いろいろとそういう手仕事、手弁当で運営しておりまして、本当に難しいと思いながら実施しております。何かありましたら本当に役場の責任だと思っておりますので、その辺のところは覚悟を決めながらも、準備は徹底して行うという中でやっております。実際に来ていただいている人数は先ほど子供さんの部分で10人くらいというのが各回にあってということですが、正直感想としては、私は去年牛肉祭りの担当の課長でしたけれども、あのような沢山来るような人数のイメージとは違って、あまり来ていないと思うのですけれども、個店では1日に10万円くらいの売上げがあるとも聞いておりますのでな

いよりはましかというか、イベントがなくなることによって日銭を稼いでらっしゃる事業者さんなどにとってみると、やはり売場所がないということも課題になっておりましたので、そういった中では少しは貢献できているのかと思いはあります。基本的には人数はインフォメーションセンターの入込みの人数としてカウントしようと思っておりますので、最大で2,000人、土日ですから少なくとも1,300人くらいというのが入っていますので、ロングランイベントでいうと1,000人から2,000人の間で来ていただいているということで捉えています。実際には牛肉祭りのように出入りでカウンターを持ってやっているわけではないものですから、一応インフォメーションセンターに入っている人数をイベントの人数として押さえさせていただいて、その人数としては大体1,300人から2,000人というのが各回あるということになってございます。

○委員長（広地紀彰君） 森副委員長。

○副委員長（森 哲也君） 状況については分かりました。感染予防の徹底について本当に時間をかけて丁寧にされたのだということが、今の答弁を聞きしっかり分かりました。お客さんの入り数ではなく、今回徹底されたということは、ほかのイベント開催にとっても大きな足がかりになるのかと思いますので、本当に大きな功績になるのかと思いを聞いておりました。

それでウィズコロナ、アフターコロナについて、今後の計画の策定を進めるに当たって、私からも12ページの策定委員会のメンバーの話になるのですが、先ほどまだ委員のメンバーというのは役場内であるのか外部であるのかはまだ分からないというお話があったのですが、これで9ページにも留意すべき視点、感染症のことも書いていますので、委員の中に感染症の分野、保健の分野から委員に入る方について、私は入って計画を感染の分野からも見た方がいいのではないかと思いますので、その辺についての町の考えをお聞きします。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 今日所管事務調査をやっていただいて本当にありがたいと思っています。我々も総合計画と総合戦略がありましたので、それを土台にして内部で検討していくことでも十分に足りるかと思っている部分もあってのまだ悩んでいますというところであったのです。今のお話、先ほどの西田委員のお話もそうですけれども、やはり新たな視点ですとかこれまでと同じような人ばかりではなくてということと、保健行政といいますか専門分野の方も入れてどうふうにその辺のことを、観光振興ですので保健の部分をどこまで話として含めるかという話がありますけれども、こういった形で前のめりになってやっているところに、少しこういう考えも必要だということをおっしゃっていただくと大変にありがたいと思います。そういった方の人選を含めて委員会を設置しようと思っております。設置した場合にはそういった分野からの選出についても検討していきたいと思っております。

○委員長（広地紀彰君） 久保委員。

○委員（久保一美君） 久保です。ウポポイが開設してから、よく町外の人からウポポイで人が集まるようになったのだから少しは白老も変わったのでしょうかと言われますけど、実際あまり実感がないとか、私には関係ないという声が少なくはないと感じるのは、ウポポイを出入口に関係ある1本の道路しかないのと、ウポポイに来た観光客である団体客なり個人客があまり町内に流れていないというのが実感できない理由ではないかと感じています。例えば白老にも倶多楽湖やアヨロ鼻灯

台、インクラの滝とかいろいろ観光スポットがあると思うのですが、それは町で上手に計画して、今団体客なり個人客でもどちらでもいいのですが、白老を絡めたウポポイと白老巡りの観光コースというのを計画しているのかどうかということ伺いたいです。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 今ウポポイ自体が受入れをできない状態です。修学旅行でもこの後はほとんど満杯になってしまって、現在はウポポイとツアーのような形の計画は今の段階ではできていないという状況になっています。実感がない、町民の皆さんに関係ないというご意見が少なくないという中で、大町商店街ですとかそういうところに流れていないということがあります。やはり今回の計画の考え方の中で、前段で道内、中段で国内、今後インバウンド海外ということを経営で出させていただいたのですが、もともと白老は日帰りの観光が多くて、そのうちの交通手段は57%くらいが自動車なのです。今回インバウンドがなくなってくると、余計に公共交通機関ではなくて自家用車で来られる、あるいはレンタカーで来られるという方が多くて、ウポポイに寄った後電車で来た方であれば、時間を合わせるために何かしら一歩渡って駅前の商店街に入るという時間があると思うのですが、今はこの情勢の中にあってできるだけ公共機関、公共的空間に行きたくないという思いも含めて、かつウポポイの人数制限をしているのですけれども2,000人です。土日は2,500人です。ただ、駐車場は246台あるのですけれども、平日でも大体駐車場は満杯になっているのです。ということは、皆さんは車で来て、そうすると見終わったら帰ってしまうということが顕著になっている状況ではあると思うのです。ですから、これを今はそれだから仕方ないということではなくて、我々はそれをどうやって少しでもどこかに立ち寄りをしてもらうかということは考えていかなければならないとはなるのですけれども、今の状況でいうとおそらくは、57%が日帰りという自家用車を使って車で来ているということが、今の割合でいうともっと高いのだろうと思っています。JRで臨時改札を使っていますが、1日に130人とか150人しか使わないのです。これにはきっと定期の人も入っていると思いますので、そう考えると実際に公共交通機関を使って、我々も土日などにイベントをしていますので、駅から歩いてくる人を見ると、どちらかというウポポイの職員なのです。観光客のような人がスーツケースを引いてくるという風景は非常に少ないのです。そういう意味では今はやはり我慢の時かと思います。コロナの関係で皆さん自分の車で来て目的に達したら帰ってしまうというところがあるので、今後まちの観光振興という意味ではその人たちをどれだけ町場にあるいは社台から虎杖浜まで行ってもらえるような、それには先ほど長谷川委員がおっしゃったような情報発信ですとか、切れ目なく情報に触れさせる環境をつくっていくことが必要だろうと思っています。我々もインフォメーションセンターのイベントで最初に大変だったのは交通整理だったのです。駐車場が満杯になってしまって、我々も素人なので半端に警棒を持って空いている、空いていないとか誘導したのです。今携帯は便利で万歩計の機能があります。うちの担当職員は当日12日に17キロメートル歩いたことになって2万5,000歩ほどです。10キロメートルを走っても1万歩少しだと思うのですが、それだけ小刻みに動いたということもあって、それだけ車での移動の需要が高いということです。今はそういう意味では車で来ているということは我慢の時かと思うのですが、ただいずれそればかりではないと思うのです。せっかく特急北斗も停まるようになって1日上下35便停まりますので、それをしっかりご

利用いただいて、そういった部分の中にそういう環境が整ったときにはきちんと受入れができるようなそういった魅力あるコンテンツというか商店街をつくっていかねばいけないだろうと思っています。ただ現状ではそういうことが少々課題なのか、致し方ないことなのかということではありませんけれども、皆さんが車で来ているのが偏っている状況かと思います。

○委員長（広地紀彰君） 久保委員。

○委員（久保一美君） 普段のご尽力に感謝と敬意を表します。そこで、ここまで具体的に車で来る割合ですとかを把握できているのであれば、コロナ禍の中の思い切ったことをできないなどいろいろありますが、逆に車単位で観光に来る人であれば3密にならないような、町内の観光スポットを周るようなものであったら3密にならないような形もありますので、具体的にこうだということからは私からは言えませんが、何か仕掛けはしていかないと駄目なのかと感じました。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 今すぐにどうこうしますということはなかなか言えませんが、11ページのその他のところにも書きましたけれども、やはり虎杖浜で工場に併せて遊戯施設ができるなど、社台ではヨコスト団地で新たな立ち寄りどころなど機能強化という形になっているかと思っています。ポイントポイントにしっかり観光の核となる施設も出ていると思います。先ほどのアヨロ鼻灯台しかり倶多楽湖もそうですけれども、そういう部分にうまく流してまさに野外型の、ホテルいずみさんでも野外ステージをつくっていただいているところで、屋外型のイベントにどれだけ皆さんの耳目を集められるかということも我々の重要なミッションだろうと思っています。有機的な連携ということなのか観光コンテンツの磨き上げということなのかは別としましても、そういったものに常時触れていただけるような発信の回数などを強化していきたいと思っています。事業がどうのこうのというよりは、それぞれそういうものがあるということをもっと知っていただくことに注力していかねばならないと思っております。

○委員長（広地紀彰君） それでは全委員から質疑を承りました。ほかに特になければ1点私からあります。これから新しい観光振興の計画づくりに向かって、既存の商業・観光振興計画の中には魅力づくりといった新しいものに取り組んでいくという観点が盛り込まれていて、実際に成功している事業もあると見受けられます。同時に魅力磨きとして、既存の魅力に対してさらに進化させていく取組も政策として重要ではないかと感じています。ただいま私どもは産業厚生の方科会として白老商業観光協同組合の方と懇談をさせていただきました。体験や民芸品の関係で大変な貢献を長年にわたってされていたにもかかわらず、今なかなか日の光を浴びられていないといった訴えがなされています。それで、実は私も白老の伝統芸能の保存会の方と懇談する機会も得ましたが、ウポポイの流れと違う町内の古くから伝わっている物や人たちに光を当てていく、そしてその魅力をさらに磨いていくといった事業も求められているのではないかと感じます。そういった観点もぜひ観光振興という枠組みの一つに位置づけていってはいかがかと考えますがいかがですか。

富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） ウポポイが開業してひと月がたって、いろいろな方々からそういうお話を伺います。やはりウポポイは全アイヌ文化ということになってきますので、ここでの発言が適当かどうか悩んでいるのですけれども、我々が発信するよりは先にアイヌの担当課から発信す

ることが必要だろうと思います。白老独自のアイヌ文化を継承する動き、取組、そういったものに取り組んでいくことが必要だろうと思っています。ただ、ウポポイの中で行われるのはアイヌ文化としては関係あるのですが、我々のまちに由来するアイヌ文化はそこでは語り尽くされないものがあると思いますので、しっかりそこから出て、ウポポイではできないものを町のアイヌ文化振興という中ではやっていくべきなのだろうと思うのですけれども、私は今観光担当ですのでその言葉をどう言っているのかと思っていますが、例えばそういうことがアイヌの担当課で構想され、検討されてどんどん推進していくとなったときにはそれを観光の分野からも支える、支援する、磨き上げる、光を当てていくということは必要なだろうと思っています。白老商業観光協同組合の話もそうですけれども、魅力づくりと魅力磨きというお言葉をいただきましたけれども、まさに本当に先輩後輩含めてみんなで取り組んでいくことが必要だろうと思っていますので、そういった中では様々な視点から観光振興につながるようなことを、今後もご相談させていただきながら進めさせていただきたいと思っています。

○委員長（広地紀彰君） 最後に、私は実は白老町商業・観光振興計画を大変評価しています。昨今、専門的知識も求められることからコンサルタントに依頼して計画づくり、マスタープランは、特に費用もかかりながら、外部の専門的知見も生かしながら、という形が主流になってきています。ところが、白老町商業・観光振興計画はほぼ庁舎内でまとめ上げてつくられています。予算もないという話もありましたが、あるなしにかかわらず、おそらく今度の計画も役場がリーダーシップをとってやっていくのではないかと期待しています。ですから、白老町の魅力という部分は私が責任を持って、まちが責任を持ってやっていかなければならないという課長のお言葉がありました。いま一度、次の観光振興計画に向けての決意について一言お話を伺いたいと思います。

富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 決意といいますか、少なくともできるだけ現場を一生懸命把握することが我々も大事だろうと思っています。そこで作文を書いてよかったではなくて、そこから一つでも多くの果実、実現が出るようなそういう計画にしていきたい、その一つ一つの積み重ねが将来に向けての町の活性化ですとかにつながっていくのだろうと思っています。我々もできることには限りがあると思いますけれども、少しでも一つの課題をこの観光振興計画の中でクリアして、課題をクリアと言いますか、発展的な部分をいかに実現して果実を得ていくかということが重要だと思いますので、我々がしっかりタグを組んでワンチームになってそういった中で前に進んでいけるように頑張ってもらいたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

○委員長（広地紀彰君） ほかに質疑がなければ、これで質疑を終了させていただきまして、説明の皆様にはご退席をいただきたいと思います。経済振興課の皆様、本当にご苦労様でした。

○委員長（広地紀彰君） 暫時休憩いたします。

休憩 午前15時25分

---

再開 午前15時26分

○委員長（広地紀彰君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

ただいま全委員よりご意見を賜りました。前回の意見にプラスをしまして、この計画の策定に当

たって新たな人材を加えて知見を得ていくべきだといったご意見をいただいております。またウポポイを核にとった部分だけではなくて、町民や事業者とともに歩いていくという視点が必要ではないかというご意見、また具体として旅行業の必要性についてご意見を賜りました。DMOを充実させていくときには旅行業の視点というご意見です。さらにまちが国に頼るのではなくて、まちが主体者となっていくべきではないか、民間の活力、昔から関わってきた方も重要視していくべきではないかという視点のご意見がありました。また関連しますが町民と一体となって意見を伺い、発信の仕方等を含めて町民と一体となってというご意見、そしてコロナの影響をきちんと計画の中に踏まえていくための人選といった部分のご意見、そしてやはり町内を回遊できる仕掛けづくりといった見地からのご意見もいただいたところです。この件にプラスしてでもいいですし、ほかの点でも構いません。ただいま、分科会主査からも活動報告書が上がってきております。アヨロ鼻灯台周辺保存会についての、これは観光地づくりという観点からも若干関係ありますので、何か主査からご説明があればお願いします。

森副委員長。

○副委員長（森 哲也君） 7月28日に行われましたアヨロ鼻灯台周辺保存会の活動状況と課題についての懇談の活動報告が皆さんのお手元にあると思います。こちらの中身を御覧いただいて、付け加える部分や修正する部分がありましたらご意見いただきたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 今まとめていただきました意見、要望、まとめの部分はこれでよろしいでしょうか。

及川委員。

○委員（及川 保君） 委員長も受け止めていただいておりますので、正副委員長の中でまずつくっていただいて、また皆さんで確認した方がよろしいのではないのでしょうか。

○委員長（広地紀彰君） それでは進め方ということで、正副委員長でということですか。活動報告についてはよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） 活動報告についてはこれで報告いたします。併せて前回も含めてたくさん意見を頂戴しています。この部分でほかにご意見があればこの場でお受けいたします。その後、賜った意見を正副委員長で整理いたしまして、原案として皆様にお示しする流れで進めたいと思っています。

それでは先ほどのことも踏まえた中で何かご意見があればどうぞ。

西田委員。

○委員（西田祐子君） 一つ気になったのが10ページの新規創業者の魅力向上ということで、大町商店街などに新たな事業主が来ましたが、その反面廃業する方も結構いらっちゃって、大町のまち自体に観光客が来ないと言いなながらも実際に観光客が来ても入れる店なのか休業しているのかよく分からないというのが現状です。まちとしてその辺をどう考えているのかが気になります。例えばこれから冬になったとしたら除雪してあるところとしていないところがあります。大町商店街を全部除雪しなさいということになったらかなりの部分で負担が大きくなってくでしょうし、除雪してないところは人が住んでいないなど、高齢のために除雪できないという人が結構います。それ

と同じように駐車場の問題もあると思うのです。花屋さんのところにスイーツのお店ができれば土日になると駐車場が狭くて、大町商店街としては北海道銀行さんや室蘭信用金庫さんの駐車場をお借りして、土日は使っていないのですから使わせてくださいとお願いしているというのですけれども、これから本当にウポポイに観光客が来て大町商店街にということになってきたときに今の駐車帯だけでは絶対に足りないと思うのです。その辺のお考えはどうなのですか。そこを改善しないと大町商店街に観光客が来ない、来たら来たで大変な渋滞になってしまうだろうと思います。その辺が気になります。

○委員長（広地紀彰君） 広く受入体勢を充実させていく必要があります。それなりの迎え入れ、具体的には駐車場、除雪の話もありましたが、重要な観点ですので記載するということでよろしいですね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） ほかにご意見ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） たくさんの意見を前回に重ねていただくことができましたので、正副委員長で取りまとめた後に皆様に見ていただいてまとめていくということでもよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） そのように進めさせていただきます。

今後の予定であります。9月4日議案説明会のときに報告書をお示し、校正等をさせていただくようなスケジュールで、正副委員長で取り組んでまいりたいと思います。併せて出前トークの報告書も配付する予定となっております。最終確認をいただいた後、9月11日に全議員にお渡しすることにしておりますので、併せて申し添えておきたいと思います。次回の開催日については、定例会9月会議で一般質問期間中のどこかのタイミングで次期の所管事務調査と分科会テーマといったことを皆様にお諮りをしたいと思っておりますので、お疲れになっているところと思っておりますがよろしくお願いたします。皆様から特にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

---

### ◎閉会の宣告

○委員長（広地紀彰君） それでは、これをもちまして産業厚生常任委員会所管事務調査を閉会いたします。

（午後 3時33分）